



ふれあい

福山南ロータリークラブ 週報

会長 田頭和規 / 会長エレクト 松本猛 / 副会長 高橋敦 / 幹事 本瓦誠 / 副幹事 寺岡宏昭
 例会会場 福山ニューキャッスルホテル / 事務局 〒720-0066 福山市三之丸 8-16 福山ニューキャッスルホテル
 Tel:084-924-5096 Web site URL:http://fukuyamasouthrotary.jp/ E-mail address:info@fukuyamasouthrotary.jp

2019-20年度

第3号

2019年8月8日
 第2696回例会配布①



2694回例会報告 2019年7月25日(木)

点 鐘 田頭会長
 司 会 籾田SAA
 ソング 「四つのテスト」
 ゲスト

福山市小中学校生活指導協議会副会長 池本 泰明 様/
 松永中学校校長
 大成館中学校 丸木 綺乃 様・保護者 丸木 美由 様
 幸千中学校 宮 凜果 様・保護者 宮 美咲 様
 城北中学校 脇坂 莉史 様・教諭 田川 佳子 様
 松永中学校 岡田 健次 様・教諭 柏原 正志 様
 オブザーバー 小島 宗大 さん



変更について(前回例会時配布)

◆地区大会事務局より
 ・2018-19年度地区大会本登録のご案内
※回覧しておりますので出欠についてご記入を宜しくお願い致します。
 ◆福山東RC(当番クラブ)より

・第1回 G10・11 会長幹事会のご案内
 日時：8月21日(水) 19:00～
 場所：福山ニューキャッスルホテル 鞆の浦奥座敷
 ☆田頭会長・本瓦幹事出席

<会長報告> 田頭会長



本日は、先ほど紹介させていただきましたいただきました中学生の主張大会にて、受賞された皆様においでいただいております。私も7月13日土曜日に北部市民センターにて開催されました大会にゲストとしてお招きいただき、若い人たちの元気なスピーチに新鮮な感動を覚え、本日、その中から特に優秀なスピーチを再度、聴くことができることを楽しみにしております。後ほど受賞者の皆さまよろしく願いいたします。

その他には、7月17日のプロバスクラブ令和元年度第一回定時総会に出席してまいりました。会員卓話として元広大客員教授の長澤 武先生によるブラックホールの1時間講義を大変興味深く聴かせていただきました。以上、本日の会長報告を終わらせていただきます。

<幹事報告> 本瓦幹事

◆ 地区事務局より
 ・ロータリーの友事務所より、クラブでの取り組みについてのアンケート
 ・2019年規定審議会 クラブと地区に関連する重要な

◆ 米山記念奨学会よりハイライトよねやま 232号
 ◆ 例会変更のお知らせ

鞆の浦 RC	変更	8/27(火)→8/25(日)12:30～ 府中RCとの合同親睦例会/小料理くわぎ
--------	----	--

<出席報告> 今田出席委員長



第2694回例会	会員総数	54名	ゲスト	9名
	会員出席数	41名	ビジター他	1名
	出席率	80.39%	出席者総数	51名
第2692回例会出席率		83.33%	修正出席率 87.50%	
(事前) 松永RC/浅利さん				
(事後) 鞆の浦RC/梶原さん・瀬来さん				

(注)出席免除者8名 内5名出席 41÷51=80.39%

<親睦委員会報告> 目崎親睦委員長



- ・パートナー誕生日祝：櫻田さん(7/21)・三吉さん(8/7)
- ・事業所創立記念日祝：多田さん(S38/8/1)・塚本さん(H22/8/7)
- ・入会記念日祝：本瓦さん(H26/7/3)・松本知さん(H23/8/4)

<スマイル・ボックス> 目崎親睦委員長

※前回の例会を欠席してしまい申し訳ありませんでした。中西さん・近藤さん・張さん、ご入会おめでとうございます。心より歓迎致します。井上さんの雑誌紹介と、中嶋さんの新会員卓話が聞けず残念でした。

・本瓦幹事

※中学生の主張大会入賞者の皆さん、本日はスピーチ宜しくお願い致します。・小島青少年奉仕委員長

※①上海呉昌碩記念館館長の呉越先生とふくやま書道美術館訪問が、中国新聞、特に山陽新聞に詳細記事が載りました。小野さんありがとうございました。

②このたびの参議院選挙にあたり、NHK広島局版に有権者の声として放映されました。北野さん、「テレビ見たよ」とお電話いただきありがとうございました。

・佐藤さん

<その他報告>



◇「第9回天野杯ロータリー親善野球大会のご案内」/野球同好会 塚本竜也さん

日時：9月23日(月・祝)
8：00～開会式
表彰式・親睦会：17：00～
ふなまちベイホールにて
☆回覧をしておりますので
宜しくお願い致します。

<プログラム> ゲスト卓話

「中学生の主張大会」入賞者スピーチ

<特別賞>松永中学校 岡田 健汰 様 演題「背中を押してくれた仲間と」

私は、もしかすると、今ここにいる誰よりも、“普通”の中学生かもしれない。身長は166cm。高くもないし、低くもない。野球部に所属している。坊主頭。これも定番。体重は…あまり言いたくない。この感覚もたぶん普通。痩せてもないし太ってもない。せめて眼鏡には個性を…。これも眼鏡男子の中では良く聞く話。

私は、中学校1年生と2年生の時、学級委員をした。「なんだ、“普通”じゃないこと、あるじゃん！」1年生の時先生に勧められた。頼まれたら断れない性格

で、引き受けた。2年生の時は周りの、「健汰でいいんじゃない？」という言葉で引き受けた。



「俺は、自分で何も決定していない。」

そんな私にでも、ここにいる皆さんに聞いてもらいたい、忘れられない「感謝の思い」がある。

野球部に、勉強・部活・生徒会執行部を両立している先輩がいた。大変だけれども、ひたむきに挑戦する、その「きちんとした」後ろ姿は、いつしか、私の中で「憧れ」から「目標」に変わった。「生徒会執行部に入りたい。」私は、中学生になって、初めて、自分で決定した。

そんな矢先に出鼻をくじかれることが起こった。立候補するための、推薦者が、見つからなかった。

仲の良い友達がたくさんいる。でもみんな誰かの推薦者になっていた。気のいい仲間たちも、「さすがに全校生徒の前でのスピーチは…」と逃げていく。目の前が真っ暗になった。立候補の締め切り日当日。私は推薦者が見つからないままの状態、先生に呼ばれた。

「今回の選挙、どうする。」「諦めたくないです。」即答したのを今でも覚えている。

そのやりとりを、たまたま教室で聞いていたクラスの女子がいた。先生が彼女に水を向ける。「先生、それは、絶対無理でしょ。」心の中でそう、思っていた。だって、普段その子と全く話さないし…。

でも、彼女は悩みに悩んで、引き受けてくれた。彼女は自分から積極的に前に出るタイプの女子ではない。それなのに、引き受けてくれた。「“目の前が晴れていく”ってこんな感じなんだ」と思った。

引き受けてくれた彼女は、とても悩んでいたらしい。彼女が、応援演説の原稿が出来なくて悩んでいたこと。クラスの前でスピーチ練習をした時、緊張で喋れず涙を流したこと。それを乗り越えるために、懸命に努力してくれていたこと。全て後になって聞いた。それでも引き受けてくれたのは、「岡田君は、これまで真面目に頑張っていた」から。自分のためではなく、誰かのために立ち上がってくれた、そんな彼女の勇気を無駄にはしてはいけない。そう思うと、選挙活動に自然と熱が入った。

私は、今、松永中学校生徒会執行部の岡田健汰として、学校の代表として、この場に立っている。あの時、彼女が勇気を出してくれていなかったら、きっと今、私はこの場にはいない。

私は、もしかすると、今ここにいる誰よりも、“普通”の中学生かもしれない。

けれど、今ここに立っていること、ここで仲間へ感謝を伝えられること、この日、この瞬間は、私にとって“特別”なこと。

勇気ある彼女の行動に。支えてくれた仲間へ。これまでの「感謝」を込めて…。「ありがとう」

＜銅 賞＞城北中学校 脇坂 莉史 様 演題「失って得たもの—逆転の発想—」



僕には右手がありません。中学1年の時、交通事故に遭い、失いました。その朝、いつものように家を出た僕は交差点で信号が青に変わったので、直進しようとしていました。その時、僕と同じ方向に進んでいたタンクローリーがちょうど左折してきました。危ないと思った

僕はそこで立ち止まったのですが、内輪差でタンクローリーの車輪に巻き込まれ、きづいたときは僕の右手は車輪に押しつぶされていました。救急車で病院に運ばれた僕は手術を受けました。全身麻酔から目が覚めた時には、もう僕の手は無く、耐え難い激痛だけがそこにありました。痛み止めを飲んでも3、40分しか持たず、次の痛みどめまでの長い時間をひたすら痛みに耐えました。それ以上に右手を失った驚きと絶望で、寝て起きたら夢ならいいのにとか、もし事故に遭わなかったらと思っても仕方ないことばかり繰り返し心の中で考えていました。何よりつらかったのは、母が「自分が身代わりになったらよかった」と泣いている姿を見ることでした。母を悲しませている自分がつらくてたまりませんでした。

1週間くらいたって、徐々に痛み慣れてきたとき、僕はようやく現実を受け止められるようになりました。それからは3か月近く入院してリハビリに励みました。聞き手が右手だった分、左手でのリハビリはずいぶん苦労しました。左手がかゆくなっても、右手がないのでかけませんでした。背中を洗おうと思っても誰かに洗ってもらわなければ洗えませんでした。靴紐1つ結ぶのも大変でした。でも、そのうち左手がかゆければ、孫の手をうまく使えばかけるということ、背中を洗うのも道具を使えば一人でも洗えること、靴だって、マジックテープの靴にすれば困らないことがわかりました。困ったときには誰かが助けてくれたり、家族が解決するための道具を見つけられました。部活動だってバスケットボールを左手でやっています。

皆さんは、僕のことを見たら、もしかしたら不自由だろうか、気の毒だと思われかもしれません。でも、僕は手を失って分かったのです。逆転の発想も必要なのだと。僕は手を失ってみて、「自分にはなくて、必要なものがあれば、探せばいい。探しても現実になれば、自分で作ればいいんだ」と思うようになりました。手が無ければ、手に代わるものを探せばいいし、なければ自分で作ればいいんだと。

僕には将来の夢があります。ロボットを作るエンジニアになりたいと思っています。そして、まず、思ったように手を動かせるような義手を作ること。そして体の不自由な人たちの役に立つロボットを作りたいと思っています。そのために、高校、大学に進学しなければなりません。だから、今は頑張っていて勉強しています。僕は

自分の未来にワクワクしています。不幸に見えることも、苦しみも楽しんで乗り越えようと思っています。手が無いからといって自分の限界を決めつけ、諦めようとは思いません。僕なら必ずできると信じています。それは信じてくれる家族がいるからだし、手を失って復帰した僕を優しく迎えてくれた仲間がいるからです。

右手を失ったとき、僕は絶望しました。でも、今は生きているだけでなんて幸せなんだろうと思います。

だから、僕は、これからも逆転の発想で人生を歩んでいきたいです。

＜銀 賞＞幸千中学校 宮 凜果 様 演題「私は一冊の本 第一章「青春」(あおはる)」



自分が輝ける場所を見つけよう。「私」の物語の主人公は「私」なのだから。

私の学校では毎年合唱コンクールが行われます。今年こそは金賞を獲りたいと私は合唱リーダーに立候補しました。曲は「心の瞳」。放課後クラスのみみんなが教室に残って歌の練習が始まりました。私はみんなの前に立ち、「さあ、歌おう」と声をかけたのです。しかし、歌声は聞こえてきません。みんな立ってはいるものの、姿勢は悪く、視線は合わず、私語の声が聞こえてくる始末。そんな日が何日も何日も続きました。困り果てた私は先生に相談しました。先生からは「普段まじめにしていない宮にはついてきてくれない。人と一緒に何かを作りたいと思えば、今の自分を見つめ直し正していかなといけん。」と言われました。ショックでした。本当にショックでした。

たしかに私の授業態度は悪い。感情の赴くまま、やりたいときにやりたいことをし、やりたくないときにはやらない。すぐ大声でしゃべってしまい、人の邪魔をしている。でも、体育大会ではみんなが優勝目指して競技やダンスに取り組んだし、毎日一緒に授業を受けて、たのしそうに笑っている。そりゃ、思いつくままに動いてしまい、他人を振り回してしまっているのは私の短所。でもこの短所は受け入れてもらえていると思っていた。

先生からの言葉に対抗しようと私はさらに自分の感情をクラスメイトにぶつけました。「一緒に金賞めざして合唱をしてほしい」と。返ってきた言葉は「なんでおまえに言われてせんといけんのんじゃ。」予想だにできなかった一言にただただ呆然とするばかりでした。

もうやめようか。私がリーダーじゃなければきっとうまくいく。そう思いました。でもよく考えるとヒントやチャンスは周りの人の言葉の中に隠されていたのです。「今の私」ではダメ。なら私が変わればいいんだ。そう決めた私は、授業中の私語をなくしました。掃除を率先してやりました。そして、嫌いな人に攻撃していたのをやめて素直に謝りもしました。するとどうでしょう。まず女子が、歌の練習を真剣にするようになったのです。

自分を変えよう。私がリーダーじゃなければきっとうまくいく。そう思いました。でもよく考えるとヒントやチャンスは周りの人の言葉の中に隠されていたのです。「今の私」ではダメ。なら私が変わればいいんだ。そう決めた私は、授業中の私語をなくしました。掃除を率先してやりました。そして、嫌いな人に攻撃していたのをやめて素直に謝りもしました。するとどうでしょう。まず女子が、歌の練習を真剣にするようになったのです。

私はうれしく、感謝を伝えました。男子も少しずつですが、声が出るようになりました。

私は気づきました。感情を正しく人にぶつけることの難しさを。そしてともに進んでくれる仲間を想いやることを。今を必死で生きることが青春だったなって。とことんやりきれば中身はどんどん充実してくる。

今、思い返せば、私の青春のクライマックスはここだった。充実したページが埋まった。読み応えのある一章になった。一章一章を充実させて私の一生の物語を完成させる。

今、未来が定まっていない、自分の人生が空白だらけの中学生に言いたい。たくさん失敗して、たくさん泣いて、たくさんほめられて、たくさん楽しめ。青春しろ。そうすれば中身の濃い一冊になる。今しかできない。特別で大事なことを飽きるまでやれ。妥協すんな。これは「私」が主人公の物語なのだから。世界に一冊しかない「私」の本。自分らしく編み上げていきたい。

<金 賞>大成館中学校 丸木 綺乃 様 演題「生きる」という幸せ」



みなさんは今幸せですか。今こうして生きていることがありがたいことだと感じていますか。私にとって「生きる」ことは、とてもありがたいことです。この中学校生活で、「生きる」ことについて考えるようになったきっかけが、二つありました。

一つ目は、2年前の祖父の死です。中学校に入学して、不安いっぱいだった私を支えてくれたのは、祖父でした。5月、初めてのテスト。私は日頃から応援してくれている祖父に喜んでもらおうと、一生懸命勉強しました。テストが返ってきて、結果を報告すると、祖父は「よう頑張ったなあ」と一言。そのときの笑顔は、今でも忘れられません。それが、祖父との最後の会話になりました。日に日に衰弱していく祖父。仕事に追われながら、看病する家族。大切な人が苦しむ姿を目の前に、何もしてあげることができない日々。そのときの辛さは今でも鮮明に覚えています。テストの度に、「よう頑張ったなあ」といったときの祖父の笑顔が、今でもよぎります。あの笑顔に対して、恩返しをしたい。心の中にある祖父とのつながりが、私に頑張る意味をくれました。

二つ目は、母の流産です。母は、私たち双子が生まれる前に3度、生まれた後に1度流産を経験しています。それを知ったのは中二の夏でした。きっかけは母の古い日記を目にしたこと。その事実を知り、私はとてもショックを受けました。「生まれてきたのが、私でよかったのだろうか」と。当時私は、母に対して、当たり前のように反抗していました。流産の話聞いて、「生まれてくることができなかつた4人の中には、私よりも母にやさしくできる子がいたかもしれない。」そう考える

と、罪悪感でいっぱいになりました。同時に、「生きていることは当たり前ではない。」と気付きました。「生まれてくることができただけでも、母に出会うことができただけでも、とても幸せなことなんだ」と。「母と母の中で生きた4人の子」とのつながりが、私に生きていることを大切にしようと思わせてくれました。

私はこれまで、幸せとは、「何かのきっかけで私のもとを訪れるもの」だと思っていました。でも今は違います。私にとって、幸せとは「大切な人とのつながりの中で、当たり前の日々を過ごすこと」です。

たくさんの人とのつながりや思いに支えられて、今がある。中学校生活で、起こった二つの出来事は、私にそのことを教えてくれました。私はこの先も、たくさん「つながり」に支えられると思います。その一つ一つを大切に生きる生き方、支えてくれた人に恩返しする生き方ができるように、これからも感謝の気持ちを忘れず生きていきます。

最後に、私に生きる意味をくれた家族、友達へいつも支えてくれてありがとう。私は今、生きることができて、本当に幸せです



<2018-19年度臨時理事役員会議事録>

13:35～ 於：例会場

【審議事項】承認事項のみ記載

- 1) 2018-19年度 最終夜間例会決算書(案)承認の件
- 2) 2018-19年度収支決算報告書(案)承認の件

本日例会[第 2696 回]	8/8(木)	12:30～
8月号雑誌紹介/井上(昌)雑誌委員長 会員増強委員会卓話		
☆13:35～ 8月定例理事役員会		

次回例会[第 2697 回]	8/22(木)	12:30～
新入会員卓話/早間雄大さん(楸クニヨシ)		

次々回例会[第 2698 回]	9/5(木)	18:30～
9月号雑誌紹介/井上(昌)雑誌委員長 新入会員卓話/井上智貴さん(Toft)		
☆13:35～ 9月定例理事役員会		

- ◇8/15(木) 休会(山の日/定款第8条第1節)
- ◇8/29(木) 休会(定款第8条第1節)

(クラブ週報担当：小野暁)